

～ノウリアスト®錠を服用されている患者さんへ～ パーキンソン病治療とウェアリング・オフ現象

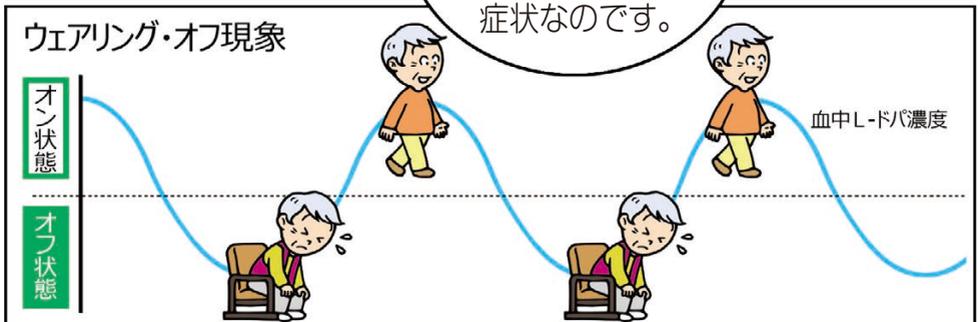
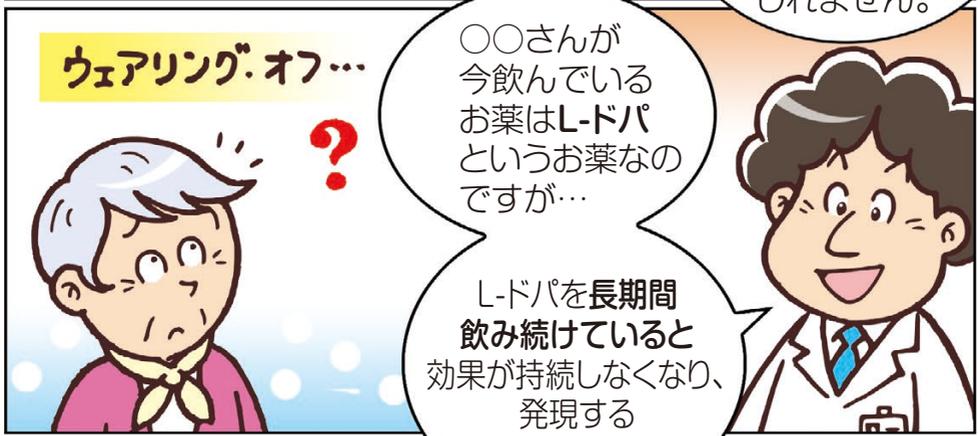
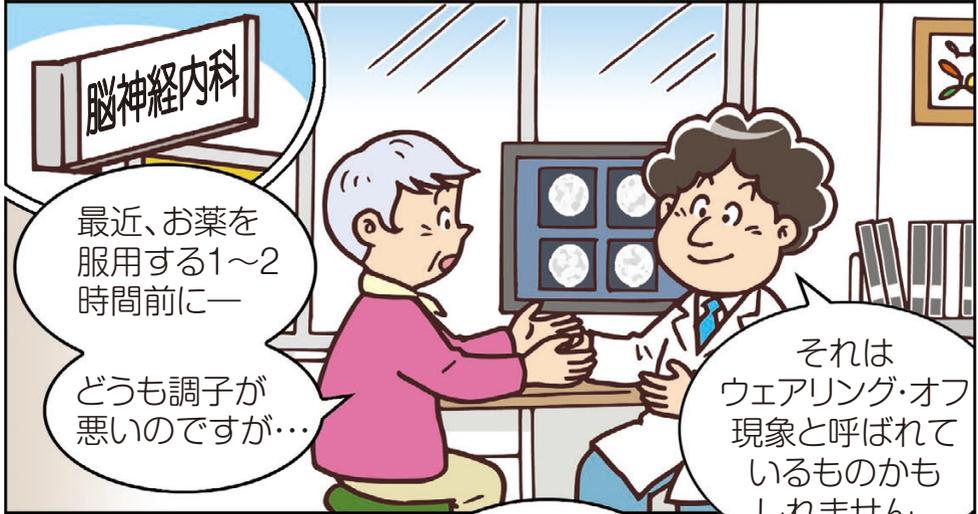
パーキンソン病とは、脳内のドーパミンという物質が減ることにより、「動きにくい」「手のふるえ」などの症状が起きる病気です。従って、治療には脳内のドーパミンを増やすお薬（L-ドパ）を服用します。パーキンソン病の発症早期の患者さんはL-ドパを服用することで症状は改善しますが、長期間服用していると、お薬の効果がしだいに弱くなりウェアリング・オフ現象といった症状が発現します。



監修 独立行政法人国立病院機構 宇多野病院
脳神経内科 院長 澤田 秀幸 先生

KYOWA KIRIN

● ウェアリング・オフ現象とは…？



L-ドパが効いて症状が良い状態(オン状態)と、効き目が弱くなり症状が現れた状態(オフ状態)を、1日のうちに何度も繰り返してしまう現象を「ウェアリング・オフ」といいます。

●ノウリアスト®とは

〇〇さん
今まで飲んでい
るL-ドパの投与量や
投与回数の調整を
行ってもなかなか解決
できないようですので、
ノウリアスト®という
お薬も服用しましょう。



どんなお薬
なんですか？



ノウリアスト®はL-ドパが
効いていない時間帯
(オフ状態)を改善する
お薬なのです。



ノウリアスト®服用

●ノウリアスト®の作用



※アデノシン:神経を調節する物質の一つ。近年脳の中で大切な役割をしていることがわかってきた。

ノウリアスト®は
アデノシンの
作用を弱める
ことにより、

ドパミンとアデノシンの
バランスを良くすることを
目的としたお薬です。



ノウリアスト®は
L-ドパとは
違う働き
のお薬なのですね。

運動機能低下の改善
(ウェアリング・オフ現象の改善)

そうなんです。
L-ドパとは作用が異なります。
L-ドパに加えて
使用されるお薬です。



● 効果が出るまで、あせらずじっくり！

効果が発現するまで、どのくらいかかるのですか。

L-ドパ
+
ノウリアスト®服用



L-ドパに比べれば効果の発現に時間がかかることがあり、効果の発現がゆるやかですから少し期間をおいて効果を見るようにしましょう。

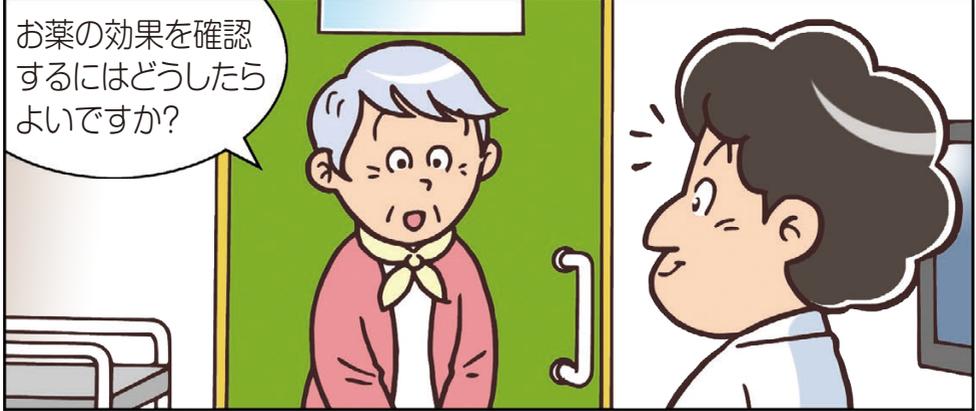


あせらず ゆっくり
治しましょう！



● 症状日誌の活用

お薬の効果を確認するにはどうしたらよいですか？



1日の症状の変化を症状日誌に記入すると良くわかります。

パーキンソン病治療においては、日常の症状を主治医にきちんと伝えることがとても重要です。

主治医の先生とのコミュニケーションに、症状日誌をお役立てください。

日常生活の困ったこと、気づいたことチェックリスト！

日常、困っていること、気づいたことにチェック☑を付けてください。

記入日 平成〇〇年 〇月 〇〇日

- 手足がふるえる。
- 姿勢が悪くなり、座っていても身体が傾く。
- つまづきやすい、転びやすい。
- 歩まどまらないうことが多くなった。
- 歩むスピードが多くなった。
- 歩むスピードが遅くなった。
- 歩むスピードが一定でないことがよくある。

- 便秘で困る。
- シャベリにくい。
- 手先の細かい作業が苦手。
- 顔の表情が乏しくなっている。
- 夜間、トイレに行く回数が増えた。
- 薬が効いていない。
- 動きが遅い。
- よだれがたれる。
- よく痛みを感じる。

記入日 平成〇〇年 〇月 〇〇日 (曜日)

立ちくらみがある

夜間、トイレに行く回数が増えた。
趣味が楽しいと感じることができなくなった。

それぞれの



ウェアリング・オフ現象の
治療は

患者さんにとって—

- どのお薬が適しているか
 - どの位の量が良いのか
- 症状を診ながら決めて
いきます。

渡されたお薬は
必ず指示を守って

服用し

症状がどうなっているか
診察時に医師に報告
してください。



ノウリアスト®を服用する上での注意点

服用する前の注意

- 次のような方は担当の医師と薬剤師に伝えてください。
 - ・ 他のお薬を服用して、アレルギー症状が出たことがある方。
 - ・ 肝障害がある方。
 - ・ 虚血性心疾患のある方。
 - ・ 妊娠中、妊娠している可能性がある方や授乳中の方。
 - ・ 他のお薬を服用している方。
 - ・ 喫煙している方。

服用する上での注意

- ・ 必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・ 自分の判断で飲むのを止めないでください。

● 飲み忘れた場合

気がついた時すぐに1回分を服用してください。ただし、次の服用時間が近い時は忘れた分をとばして、次回から指示通りに服用してください。
絶対に2回分を一度に飲んではいけません。

● 誤って多く飲んだ場合

医師または薬剤師に相談してください。

服用中の注意（副作用）

- 主な副作用として下記のような症状が報告されています。
ジスキネジー（持続的な不随意運動）、便秘、幻視・幻覚、眠気、吐き気、体重減少。
- 下記のような症状があらわれた場合は、すぐに医師または薬剤師に相談してください。
 - ・ 実際にはない物が見えたり聞こえたりするように感じる、根拠のない思い込み。
 - ・ 意識が乱れる。
 - ・ 漠然とした恐れを感じる。
 - ・ やる気がおきない、気分が落ち込む、不眠。
 - ・ 気分が高ぶる、興奮、感情が激しく高ぶった状態。
 - ・ 欲望・欲求が抑えられない。

※上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

This image shows a page from a notebook with 18 horizontal dashed lines for writing. The lines are evenly spaced and extend across most of the page width. The page is otherwise blank.

医療機関名：